

同志社大学

2008年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2009年3月11日提出

所 属	職 名	氏 名
法	教授	大矢根 聡
研 究 題 目	経済外交の変容とレジーム・コンプレックス	
研 究 成 果 の 概 要	<p>日本とアメリカの対外経済政策、国際経済レジームにおける交渉に着目しつつ、国際経済レジーム、とりわけWTO（世界貿易機関）において国際ルールが衝突し、それが調整される様相を理論的、実証的に検討した。</p> <p>執筆中であった論文（1）および（2）は刊行された。新たに執筆した（3）は近日中に刊行される予定になっている。また（2）は、国際政治学会の学会誌の巻頭論文であり、同誌を編集する際にも、研究成果を利用することができた。</p> <p>また、国際政治学会、日本政治学会において、国際レジームの衝突と調整、国際レジームと民主的手続きの問題などのセッションが開かれ、そこで司会、討論を担当した際にも、知見や情報を利用した。</p> <p>（1）大矢根聡「レジーム・コンプレックスと政策拡散の政治過程—政策アイディアのパワー—」大芝亮・古城佳子・石田淳編『日本の国際政治学（2：国境なき国際政治）』有斐閣、2009年1月</p> <p>（2）大矢根聡「序説・グローバル経済と国際政治—国家と国際レジームの位相—」日本国際政治学会編『国際政治』153号、有斐閣、2008年11月</p> <p>（3）大矢根聡「グローバル化とガバナンスの再検討と政策次元—政策拡散と政策統合—」富沢克・カ久昌幸編『グローバル時代の法と政治—世界・国家・地方—』成文堂（刊行予定）</p> <p>（4）日本政治学会・研究大会、2008年10月12日（関西学院大学）「国際機関の法制化と民主化」分科会、司会・討論者を担当</p> <p>（5）日本国際政治学会・研究大会、2008年10月26日（筑波国際会議場）「レジーム・コンプレックスの実証的・理論的分析へ」分科会、司会を担当</p>	